

通信文化新報

平成22年(2010年)1月25日(月曜日)

日本郵便

牛込支店の本橋課長代理・山中総務主任に「感動賞」

あて名に「サンタさん」とだけ書かれた手紙、子供の夢を壊さないようにと、自宅にそっと届けた東京の日本郵便牛込支店の社員「心に温い灯がともりました」と感謝の新聞投書が掲載された。

投書の要旨は「小学一年生の孫娘が、サンタさんに手紙を送った。悩んだあげくに欲しいプレゼントを決め、母親が知らないうちにポストへ。自分の名前と住所はしっかりと書いたものの、あて名は『サンタさん』だけ。夕方、郵便配達の方が『分からないように隠しておいてあげてください』と目告へ。郵便受けへの返送は、本人が見つけてしまっ

“小学生のサンタさんへの手紙”そっと母親へ返還

かもとの気遣いがあり、た対応を行った第一集がたく、心に温い灯が配営業課の本橋泰憲課長と、とりました「朝日長代理、山中亮介総務主任に「感動賞」として新聞、12月7日。あて名不備と通常のて、勝野成治東京支店返還処理にこたわら長の推奨状が一月八日、子供の心に配慮しに贈られた。



推奨状を手にした本橋課長代理(右)と山中総務主任。右は浦池東京支店営業部長、左は堀米支店長

区分中に手紙を見つけた本橋課長代理が寝た本橋課長代理が寝た本橋課長代理に「子供の気持ちがあもっている筆跡、そのまま返還処理をする、サンタさんへ届かなかったこと、ショックを受けるか、山中総務主任も「自分も知れない。直接、親御さんに手渡したらどうだろうか」と相談、さんだけに分かるよう窪田課長が山中総務主任に話した。最初はサンタさんに理由を説明して手渡すようにと指示。

山中総務主任は「おられないようにしてあげた大切な手紙、本人にと、たいへん喜んで分らないように」とらった。手紙を大切に母親へ。子供の気持ち、思ってもらえて、むしろ、たいへん喜んで、良さを多くの人に知ってもらったことが、祖母の、でも、あつた。投書となった。

本橋課長代理、「普アップのために通に返すのは簡単。夢ねいな接遇を心がけたを壊してしまっのかい」と語っている。

わいそう。自分の子供のことを考えたら、普通の返還処理は、き